



第104号
令和7年4月29日発行



社会福祉法人 慈生会 マ・メゾン光星
〒329-3224
栃木県那須郡那須町豊原乙1189
TEL0287-77-1013 / FAX0287-77-0996
URL: <https://www.m-kousei.org/wwwhome/>
E-mail: kousei@jiseikai.jp



令和7年度の始まりに



マ・メゾン光星 施設長 小野崎孝史

那須の山々にも新緑が芽吹き、穏やかな春の日差しを感じる季節となりました。日頃はマ・メゾン光星の運営にあたり、皆様からのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

令和7年度が始まりました。今年3月に陶芸作業室、防災機能を備えた新たな日中活動棟が完成し、本格稼働に向けた準備が現在進められております。ご利用者の皆様も新しい建物で陶芸ができる日を心待ちにしてくれているようです。

今年度も一人ひとりのご利用者が心身の健康を保ちながら日々の生活、外出、旅行や社会参加が楽しめるよう、高齢障害者のフレイル予防、重度障害者の年齢や障害特性に合わせた健康的で張りのある生活、活動支援に、職員共々、力を入れていきたいと思っています。

さて、全国の障害者支援施設におけるご利用者の高齢化問題については、ご利用者が高齢化し、機能低下しても、同一の施設での生活を継続する事例、他方で地域生活の継続が困難となり年齢を重ねてから入所せざるを得ない事例等、いずれも増加していくことが予想される中、地域移行の可能性が低くなっていくご利用者を障害者支援施設でどのように支援していくのか、また、障害福祉施策と介護保険制度との兼合い、「親なき後」について障害者支援施設がどのような役割を担うのか、更には地域における支援体制をどのように充実していくのか等が、大きな課題となっております。当施設におきましても、高齢ご利用者の増加に伴う疾病増により、医療機関への付添い支援の増加、また、常時の医療ケア（褥瘡処置等）、介護（多様な食形態の提供と摂食・嚥下対策、定時排泄介助等）が必要なケースが見受けられるようになり、増加傾向にあります。

施設としては、これまでも介護保険施設と同等の体制整備（環境・設備の充実、医療との連携や看護師の加配、介護技術を持つ職員の養成など）が運営上求められる中で、高齢ご利用者の日々の生活の質を保ち、その人の人生を豊かにするためには、どのような支援を実践したら良いのか、やがて高齢期を迎えるご利用者についてどのような準備をする必要があるのか、と

いう課題に対して真摯に向き合い、体制整備の検討が行われてきました。

今後は、ご利用者に適した将来設計を考える上で、特に医療との連携については地理的条件故に体制整備が困難であること、65歳以上の障害者で自立支援給付を受給している場合も、介護保険が優先されること等を踏まえつつ、家族との情報共有、相談体制のもと、ご利用者の心身の状態を勘案しながら、「住まい」を検討し、最適な選択ができるように機会を保障していきたいと考えております。また、高齢ご利用者だけではなく、重度、強度行動障害等の利用者の特性に応じた支援にも併せて力を入れていく必要があります。専門的な支援スキルの獲得や支援内容・体制の見直し、環境整備をはじめ多くのことが施設には求められます。そういった数々の課題を乗り越えていくためには、職員一人ひとりの感性、そして、職員間のチームワークが不可欠であり、とても重要になります。

昭和2年、創立者のフロッジャック神父は、当時、死の病といわれ、強い感染力をもつ結核患者の訪問を行い、1200名の入院患者すべてに近々と自分の顔を寄せ、相手の目を優しく見つめながら「具合はどうだね？」と一人ひとりお見舞いされました。

我々は、障害を持った方々の支援に携わる者として、自分達が関わる方々を丸ごと見ていく（感じる、気づく）力をつけていかなければなりません。マ・メゾン光星で働く職員が、友人等に自分の職場を勧めることができるくらい、皆が自分の職場を好きになれたならば、きっと感動するくらい素晴らしい支援をご利用者に提供できると信じております。

「どんなことであれ困っている人が一人でもあれば、その問題解決の為に手を貸さなければならぬ。遠い将来の完璧な解決よりも今が大事なのだ」というフロッジャック神父のお言葉から活路を見出すべく、多種多様な課題と向き合い、前に進んでいきたいと思っています。



カトリック コーナー



主のご復活おめでとうございます！

カトリック教会では、ご復活を盛大にお祝いします。クリスマスの方が良く知られていますが、本当は『ご復活』の方が大切なお祝いと言われています。

今年のご復活は4月20日です。マ・メゾン光星では、4月22日（火）にミサを捧げました。

～ヨハネによる福音～

（イエスさまが十字架上で死んで3日目の早朝の出来事）
『週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリ
アは墓に行った。そして墓から石が取りのけてあるのを見
た。そこでシモン・ペトロの所へ、またイエスが愛してお
られたもう一人の弟子の所へ走って行って彼らに告げた。
「主が墓から取り去られました。どこに置いているのか、
私たちにはわかりません。」

そこでペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行
った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方がペト
ロより速く走って、先に墓についた。身をかがめて中をの
ぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は中には入ら
なかった。続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入
り、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでい
た覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸
めてあった。それから先に墓についたもう一人の弟子も入
ってきて、見て信じた。

イエスは必ず死者の中から復活されることになっている
という聖書の言葉を二人は理解していなかったのである。』

20章1節19節

イエス様の時代の墓は、岩を掘った横穴で、その入り
口は転がる石でふさぎ、死者の世界との境界を閉ざした
と言われています。

今年も復活されたイエス様に導かれながら、共に歩め
ますように祈りたいと思います。

Sr. 林 聖子

家族会だより

助川江美子

マ・メゾン光星に入所して一年。穏やかな姿
で帰省する息子を見るたび、本当に良かったと
感じている。

十七歳で糖尿病を発症し入院した。自閉症重
度知的障害の息子に、医師は「早く施設に入所
して、健康に生活できる環境を整えた方が良い」
という言葉告げた。

幼少期よりお世話になっていた養育の先生に
も「三十歳までに自立して、親亡き後の生活基
盤を作った方が良い」と勧められていた。

自傷等もあり、厳しい現実の中での施設探し
が始まった。

いろいろな施設を見学する中で、生活してい
て生き生きとした表情をしていたのが、マ・メ
ゾン光星だった。息子には笑顔で毎日を過して
欲しいと願い、デイサービスとショートステ
イを利用し、三十歳で入所させて頂いた。

本人が一番行きたい所がマ・メ
ゾン光星だったと思う。

一度も「行かない」と言うこと
なく「行くよ」と必ず言う姿に、
マ・メゾン光星の皆様のあたたか
な支援を感じ、感謝せずにはいら
れない日々である。

VOICE



新ひかり工房が 完成しました

完成しました

3月24日、澤野神父様の
司式の下、新しく完成した
新ひかり工房の開設を記念
する祝別式が行われました。

本部より関事務局長にも
お越し頂き、ご利用者代表
としてへいわファミリーの



皆さんが祝別の祈りに参列してくださいました。
新しい建物は、陶芸作業室、更衣室、外作業
用の農機具等の保管庫、防災備品、非常用保存
食、保存文書類等の保管庫と多種多様な使い方
を想定しています。

祝別式では神父様が各部屋を聖水で祝福しな
がら回ってください、皆で喜びの讃美歌を歌い、
「新たな陶芸工房でさらに素晴らしい作品を作
り上げる事ができますように」「この建物の建
設にあたり様々なご尽力を頂いた方々へ感謝し
ます」との祈り捧げる事ができました。

皆にとってまた一つ新しい活動拠点ができま
した。充実した活動と、万が一の際も安心安全
に皆が過ごせるよう有効活用をしていきたいと
思っています。

記 杉山智和



鬼は外!! 福は内!!

去る2月3日の立春を迎えたこの日、マ・メゾン光星では一日遅れの『節分お楽しみ会』が行われました。



新型コロナウイルス感染症やインフルエンザが流行っている時期とあって、全体集まってる豆撒きとはいきませんでした。担当職員が各ファミリーを回り、節分の起源や豆まき、春分の説明を、手作り紙芝居を使って行いました。利用者の方々は、質問を交えながら、元氣よく答えてくれたり、大きな声で返事してくれたり盛上げてくれました。

紙芝居が終わると、鬼に扮した職員や実習生が登場!。奇声を上げながら利用者の皆さんに襲いかかります(笑)

利用者さんは、ここぞとばかりに「鬼は外、鬼は外」「福は内」と掛け声をかけながら、各々が持った大豆を鬼に向かって力いっぱい投げつけていました。

今年も良い年になりますように。お風には恵方巻をみんなで美味しく頂きました。

記 田野昌弘



お花見



ひかりF

当日はあいにくの雨、桜も咲き始めたばかりで見頃とは言えない状況の中での開催となっていました。

予定していたお花見散歩は中止になってしまいましたが、みこころホールをお借りして、プロジェクトで各地の桜の名所を映しながらお弁当を頂きました。

その後はカラオケを楽しみ、希望のどら焼きを美味しくいただきました。

記 塩田晶子



めぐみF

みこころホールで窓から見える桜と、利用者さんの作った貼り絵の桜を見ながら花見を行いました。風船取り、風船渡しリレー、風船バレーを全力で行い、汗を流す利用者さんもありました。

給食のお弁当を美味しくいただき、砂塚さんがピアノを弾いて聞かせてくださり、楽しいひとときを過ごすことができました。

記 大森真佐子



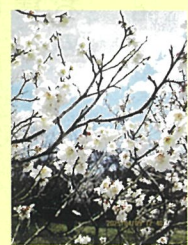
へいわF

4月9日にお花見会を行いました。桜には早すぎる日程だったこともあり、桜はまだ開花しておらず、ちょうど満開だった梅の花が眺められる栗林の中で開催しました。

みんな大好きハンバーグ弁当と桜あんの入ったどら焼きを味わいました。

皆で賑やかに春を迎えられることに感謝して楽しい時間を過ごしました。

記 和田加奈子



通所

多分、天気が良ければ最高の桜だったという日に、なんとという天気でしょう! 前日からの雨予報、みんなの力を持っても吹き飛ばせず、給食の皆さんの愛情のこもった唐揚げ弁当を通所室内でいただいた後、雨の中ではありませんでしたが、『白河小峰城跡、城山公園』と『白河南湖公園』の桜を車中から観てまいりました。

有名な南湖団子をお土産に

利用者の皆さんは、花より団子の“空気感”いっぱいでした。

記 面川浩美



自治会便り

昨年度の活動を振り返ってみます

ゴミ拾い (11月)



ぐるりとマ・メゾン光星を回るルートを熱心にゴミを探しました。大きな袋を3つ持参しましたが、ほとんどゴミがなく樹脂の破片や袋くらい。目を凝らしゴミを探す自治会役員の意識の高さに驚き、みんなが綺麗に地域を保とうとしていました。

映画会 (2月)



映画会では、45人ほどの利用者が鑑賞し、達成感がありました。皆が落着いて鑑賞できよう自治会役員と気を配りました。



こうして振り返ってみると、「自分のことは自分でやる・自分でやりたい」その意気込みを応援していくのが我々支援員の役割だと改めて感じます。
今年度は早速、5月から自治会役員選挙に向け、有志の面々が意気込みを掲げて挨拶、6月に投票、7月には新役員による新しい自治会となります。多くの立候補をお待ちしています。

記 田中章介

お知らせ

★オリエンテーリング開催!

令和7年6月7日(土)、マ・メゾン光星オリエンテーリングを開催します。

那須の大自然と触れ合い、施設内を歩きクイズを解きながら、仲間たちとみんなで楽しくコミュニケーションをとり合い、美味しいお弁当を食べ、心と身体をリフレッシュしましょう。

参加者の安全と体力を配慮しながらコースのプランを立て、怪我の無いように計画を進めております。晴天に恵まれることを願って準備してまいります。御家族の皆様のご参加多数をお待ちしております。

記 池田光雄



新任職員紹介

○事務所所属

芳村日香里さん



事務所に所属となりました。皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

○めぐみファミリー所属

堀井由佳里さん



1月よりお世話になっております。皆さんと楽しく行事や活動に参加していきたくです。よろしくお願いたします。

○ひかりファミリー所属

増淵安奈さん



4月からお世話になっております。主にアトリエで支援をさせて頂くことになりました。皆さんの良いところを伸ばせるよう努めたいと思います。

○ひかりファミリー所属

大栗勝さん

60歳まで機械系技術者として工場で働き、その後観光農園でいちごを作っていました。猫を飼っています。宜しくお願いたします。

退職者

この春、4名の方が退職されました。今まで、大変ありがとうございました。

藤田文子さん

Sr. 林聖子さん

藤田貴代さん

小堀三枝さん



編集後記

那須も寒かった冬が終わり、桜が咲く暖かい春を迎えました。今年度もいろいろな行事が予定されていますので、皆様にはその様子や声を、この広報紙を通じてお伝えできればと思っています。

記 清水綾太